

平成23年度 第1回京都府子育て支援対策協議会の概要

1 日 時 平成23年10月21日(金)10時30分~正午

2 場 所 ルビノ京都堀川 朱雀の間

3 出席者 澤田座長、伊藤委員、大江委員、岡崎委員、小川委員、神原委員、河嶋委員、川村委員、櫛田委員、小高委員、定本委員、芝野委員、樋口委員、藤本明美委員、藤本明弘委員、山岡委員

4 議 事

(1) 平成22年度京都府の子育て支援に関する施策の実施状況について

【主な意見】

- ・P D C Aサイクルの評価をする資料を載せる必要があるのではないか。例えば虐待対策について、現状ではどこまで進んでいるのか、あるいは進んでいないとすると何が背景にあるかなど、府民に対する施策として、きっちり評価するということが必要。
- ・各現場の事業の方向性はどうかなど、現場での点検評価シートを作るべき。どんな観点で動いているか生の声があれば良いし、実際どんな現場かを洗い出し、議論した方が良い。
- ・出生率が上がらないのは、産んでも預かる環境が不十分な現状にあり、価値観の変化も幅広い政策を打っていけばうまくいくのではないかな。
- ・出生率の低さは、日本の社会風土が、結婚イコール出産になっている。例えば、フランスのように結婚と出産を区別するような考えができないか。そういう発想の転換をしていく考えもあるのではないかな。
- ・子どもの「遊びたい」ニーズが満たされていない。地域で見守り育てるのは良いと思うが、「良い子どもに育てる」は誰にとって良い子どもなのか。「子ども」目線で、将来にイキイキとした環境づくりになっているのか、検証することが必要。
- ・妊娠されたお母さんから話を聴く、経済状況や家庭環境などの悩みを聴く、といったことが不足していないか。世代ごとの悩みや課題を聞いてリアクションしていくことが必要。
- ・虐待は根本から対処していかなければいけない。親としての学びのプログラムが必要。京都には多くの大学があるので大学側が積極的にプログラムを取り入れれば強力になる。

(2) 子ども・子育て新システム中間取りまとめについて

- ・子ども中心に議論されている点は良いが、財源を含めて一本化するとして、どういう施設を今後指定していくのか。子育て、保護者の安心を抜きにして数字だけ出すのではなく、そこをしっかりと検討して欲しい。
- ・子どもたちが幸せであることが親の安心につながる。このような場があることは大切。